

第3回 豊橋市市民協働推進審議会 議事録

日 時	平成29年10月27日（金） 9：45～11：45
場 所	豊橋市役所 災害対策本部室（西館4階）
報告者	中村 志織
出席者	別紙のとおり（1名欠席）
傍聴者	1名

1 開会

2 会長あいさつ

○欠席者 井口芽友可委員

○議事録署名者 高森英樹委員、土田清人委員

○事務局から報告

・情報公開請求について

平成29年度市民協働推進補助金（後期募集）の企画採択通知について、決定通知に関する資料一式の情報公開請求があったことを説明。

3 議題

（1）市民協働推進計画の推進に向けた取り組みについて

○若者向け補助制度の創設に向けて

※資料に基づき事務局が説明

委 員：平成30年度から若者向け補助制度を実施することは決定なのか。

つつじ・くすのき補助金と同じ枠の中で実施するという事なのか。

事務局：審議会で意見をもらいながら検討を進めている段階であり、平成30年度に実施することは決定していない。

委 員：補助金制度以外の若者に向けた取り組みはあるのか。市は若者にこういった活動を期待しているのか。

事務局：若者も一緒にまちづくりを進めていきたいと考えるなかで、市民協働推進課だけでなく各部署でも若者と協働で取り組まれているものがいくつかある。

委 員：お金を出すからやってね。という考え方に疑問を感じる。

若者が関わり行われていることに対して援助していく方法もある。市がやっていることに若者の力を借りていくという考え方もある。若者の担い手を育成していくのであれば、こうしたところからやってもらいたい。

委 員：1つの部署だけでなく全体で若者育成ができるとよい。

会 長：各委員より事前にいただいたご意見と、ただいまの事務局からの説明のあった資料を確認しながら意見交換を行いたい。

①審査項目について

- 委員：大学で学んだことを活かす意味で専門性を項目に入れても良いと思う。
- 委員：何のために使われるかははっきりする必要があるため、公益性は必要。専門性はなくとも良い。後輩たちに続けてもらえるようなものを考えいってもらいたいと思うので継続性は大事。また、それは実効性にも繋がる。
- 委員：今の補助金の項目から逸脱しない方が良い。協働すること、公益性があることを基盤にしたい。
- 委員：専門性、継続性、実効性については、学生ならゼミなど大学で専門的なことを学ぶのであっても良い項目と思う。
- 委員：若者向け補助制度だから、ハードルを低くする、書類を簡素化するというところに違和感がある。根本的なところは、今の補助金をベースとした方が良い。若者の対象が大学生だけでないのであれば、それに伴い審査項目は変わってくる。斬新さ・おもしろさ・興味を引くようなもの・遊び心などが項目の中にあっても良い。
- 委員：審査項目はつつじと同じ。応募の間口を広げるためには、継続性・実効性は重要視しなくてもよい。地域問題に対して、若者がどう捉えどう活動しようとしているのかが分かる公益性・必要性を2倍にしてはどうか。
- 委員：若者と地域が繋がってほしい。よって、公益性・必要性は大事。若者独特な感性も大事にしたいため専門性があることにも賛成。継続性についても、運営手法を引き継ぎ、人との関わり方など大人になって必要なスキルも身につくため代替わりによる継続という形があっても良いと思う。
- 新しい提案として、「貢献性」という項目があっても良い。学生は大学の中で完結してしまう取り組みが多い。地域に還元されるような活動をすることで外に繋がりが広がっていく。
- 委員：公益性・必要性は必要。継続性を2倍にすることには疑問を感じる。大学生なら専門性という項目があっても良い。
- 委員：目的を達成してしまった場合のことを考えると継続性は2倍でなくてもよい。
- 委員：八戸市の取り組みが良く感じる。大学生は4年のうち、1年ぐらしか活動に参加できないため、継続性の項目はなくても良い。また、この補助金の対象者の若者が大学生に限られているわけではない。よって専門性を項目に挙げるのはフェアではない。
- 委員：働いているからこそ、専門性があるという場合もある。
- 委員：専門性を審査項目に入れることが必要か。

②若者に対する定義

- 委員：義務教育を外れた高校生以上で「学生」。
- 委員：団体にどういった立場の人が入ったらよいのか分からない。
- 委員：院生も学生である。
- 委員：八戸市など、指導員を明記することになっている。

委員：先生は入った方が良い。しかし先生主体ではだめ。自分たちでたったという達成感が薄れてしまう。

③補助金額

委員：学生が取り組みたいと思える金額が良い。

委員：協働に踏み込むことを目指してほしい。地道なところにも目を向けてもらいたいため、まずはつつじ補助金と同じところからスタートしてもらいたい。

委員：実際にイベントに関わった経験から、イベントを自前で行うには20万円程度は必要だと感じた。

委員：つつじ補助金と同じで良いと思う一方で、金額が多ければ多いほど“やってみたい”という気持ちに繋がる。

委員：お金がないと一歩が出ないため何も始まらない。

委員：つつじ・くすのき補助金を見直すのならば別だが、この2種類の補助金額は超えられないと思う。

委員：まちを活性化するために、若者の力は必要で補助金はそのための1つのツールである。“やってみたい”と思ってもらえる条件の補助制度としたい。

④補助率

委員：資金が無いことを理由に活動を諦めてもらいたくないため10/10が良い。

⑤提出書類

委員：活動の継続を求めないのであれば、会則はなくても良い。

委員：会則は必要。テンプレートを示せば、簡単に作れる。

委員：作成することが、今後の勉強にもなる。作成を手伝う人がいると良い。

委員：提出書類の中に会則に準ずる項目があれば良い。

⑥補助金名称

委員：例えば広報のツールにもなるので応募してもらうのはどうか。

⑦その他

委員：大学と連携した方が良い。

学生は直接市とやり取りするのか。大学を通して市に申請するのか。

事務局：そこまではまだ考えていない。

第4回の審議会に向けて

- ・審議会の意見を踏まえ、若者向け補助制度の募集要領（案）を作成し、次回審議会前に委員へ送付する。
- ・予算には限りがあるため、まとまった額を少ない団体へ交付するのか、少ない額を多くの団体に交付するのかを踏まえ補助額について再度意見交換する。

会 長：若者向け補助制度以外の取り組みについて意見を集約した資料があるが、本日は時間がないため、次回の審議会の中で引き続き話し合っていく。

（2）平成30年度市民協働推進補助金について

※資料に基づき事務局が募集から審査までのスケジュール、応募要領について説明。

※応募要領について意見…11月2日（木）まで受け付ける。何も無い場合は、これで決定し募集に向け準備を進めていく。

4 その他

事務局：次回は、12月を予定（詳細な日時は後日調整）

5 閉会

平成29年12月19日

議事録署名者

高森 英樹

印

土田 清人

印

第3回豊橋市市民協働推進審議会出席者名簿

(五十音順・敬省略)

NO	氏 名	選 任 区 分
1	おおたに よりこ 大谷 代里子	公募
2	おおにし ゆきひろ 大西 志拓	豊橋創造大学から推薦 (学生)
3	おのだ としお 小野田 敏夫	公募
4	じょん じゅん 鄭 智允	愛知大学から推薦 (愛知大学地域政策学部准教授)
5	たかもり ひでき 高森 英樹	市民センター指定管理者から推薦 (特定非営利活動法人ビリーブ)
6	つち だ きよと 田 清人	豊橋市社会福祉協議会から推薦 (豊橋市社会福祉協議会職員)
7	ながい きくの 長井 菊野	豊橋技術科学大学から推薦 (学生)
8	はやし のぶ お 林 信雄	豊橋市自治連合会から推薦 (豊橋市自治連合会理事)
9	わたなべ ようこ 渡邊 洋子	豊橋商工会議所から推薦 (豊橋商工会議所女性会会長)

※任期：平成29年5月10日～平成31年5月9日

《事務局》

市民協創部

市民協働推進課 課長 河合 幸子
主幹 小久保 雅司
課長補佐 夏目 直美
主査 大竹 祐輔
主事 中村 志織
主事 上田 響子